

平成 31 年度広島県公立高校入試選抜Ⅱ 分析速報(英語)

□平成 30 年度入試との問題・設問構成比較

大問構成は変わらず 4 つ。文章を書く問題が増える。

大問 1 にリスニング、大問 2 が対話文読解（発表についての話し合い）、大問 3 に長文読解（エッセイ）、大問 4 にメールの文章を作る問題の 4 題構成と、昨年と変わらない問題構成になりました。内容もほぼ昨年と同じ形になっています。作文を書く分量がやや減り、記号の問題が増加している印象です。また、「あなたの考えを書く」問題が各大問にあります。

□平成 30 年度入試との難易度比較

昨年とほぼ同じレベル。平均点もほぼ変わらないと予想

昨年に引き続き、大問 1 に賛成反対の作文が出題されています。大問 2 では、図を読み取りながら簡単な計算を要求している問題が出題されています。大問 3 の文章も昨年に比べると読みやすいものが採用されています。大問 4 に、「職場を推薦する」という日常的にありそうな文章を英語で書く問題です。全体的に見ると難易度は昨年並み、平均点についても昨年とほぼ変化なしと予想します。

□平成 32 年度入試に向けて“今すぐ行う”対策

単語・熟語を覚え直す

大問 2 と大問 3 が長文問題、大問 1 と大問 4 にも作文を書く設問がありました。つまり、読むにしても書くにしても、単語や熟語の知識がなければ前に進みません。まずは、何はなくとも「単語・熟語」を覚えることです。教科書に載っている単語はすべてチェックし、覚えましょう。早い段階から長文を読み、慣れておくことも大事なことです。

平成 31 年度広島県公立高校入試選抜 II 分析まとめ

□平成 31 年度の全体的雑感

- ・昨年並みの量、難易度。対策が練られた生徒にはやりやすい
- ・文章量が多く、体力を削られて全体的に「タフ」な入試となる。

□予想平均点 (50 点満点。5 教科合計 250 点満点)

| | |
|--------|--------------------------|
| 国語 | 21 点～22 点 (昨年 23.5 点) |
| 社会 | 21 点～22 点 (昨年 18.0 点) |
| 数学 | 24 点～25 点 (昨年 22.4 点) |
| 理科 | 22 点～23 点 (昨年 19.1 点) |
| 英語 | 24 点～25 点 (昨年 24.4 点) |
| 5 教科合計 | 112 点～117 点 (昨年 107.4 点) |

昨年よりも若干上昇すると思われる。

《参考》過去 6 年間の各教科平均点の推移

| | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 |
|----|-------|-------|-------|-------|------|-------|
| 国語 | 32.1 | 31.5 | 28.8 | 25.6 | 23.9 | 23.5 |
| 社会 | 26.7 | 30.8 | 25.7 | 21.2 | 19.3 | 18.0 |
| 数学 | 23.7 | 27.3 | 30.1 | 24.8 | 23.1 | 22.4 |
| 理科 | 27.4 | 25.3 | 23.0 | 19.7 | 17.1 | 19.1 |
| 英語 | 21.3 | 24.4 | 24.0 | 23.7 | 15.9 | 24.4 |
| 合計 | 131.2 | 139.3 | 131.6 | 115.0 | 99.3 | 107.4 |

(各教科 50 点満点・合計 250 点満点での平均点)

□平成 32 年度入試に向けての注目ポイント

・表現力を問う課題が各教科で出題

国語の 250 字作文や、英語の英作文などが典型的な例です。「この状況であなたならどのように考えるか／どのような発言をするか」というタイプの問題が定着しました。

・資料を読み取って解く設問の出題

どの教科にも、図や文章、グラフなど資料を読み取って答える問題が出題されています。特に英語では、英語を読みながら資料を参照し、さらに簡単な計算をする、という 3 つの力を同時に問うような問題も用意され、慣れていなければなかなか解きにくいと思います。

□来年度以降高校入試を受験する人へ

基本知識は今から積み上げる

上に書いた通り、広島県の入試は応用重視に寄っています。
ですが、応用問題をしっかり訓練するのは3年生になってから。それよりも今は、訓練が始まるまでの基本知識を積み上げる期間に当てましょう。

もう、高校入試は始まっています。
合格するかどうかは、今日この瞬間にかかっているかもしれません。
強い気持ちを持って、毎日の勉強に臨んでください。